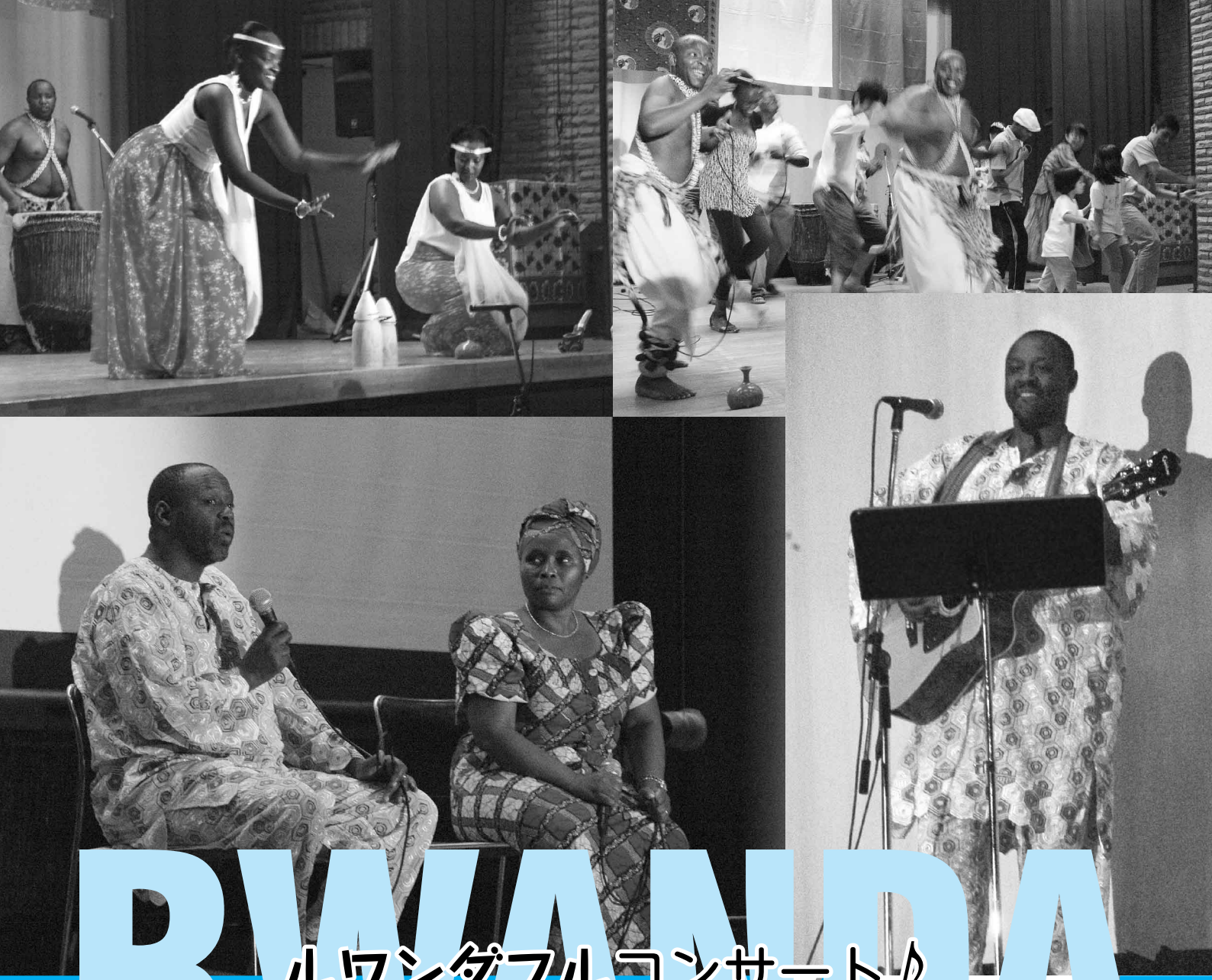


RWANDA

ルワンダフルコンサート♪

unicef

2●「ルワンダフルコンサート2010」開催
3●「コーヒー危機とフェアトレード」講演会
4・5●特別寄稿/大津司郎氏
「アフリカ・フロントラインから見えてきた日本」
6・7●活動File（2010年4月～9月）
●ユニセフ支援パートナー紹介③:コープこうべの取り組み
●緊急募金のお願い/ボランティア募集
8●お知らせ

Vol.31
（2010年11月号）

世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

「ルワンダフルコンサート２０１０」
●7月１０日開催

7月10日（土）、初来日というルワンダ出身ミュージシャン　ジャン・ポール・サンプツゥ＆インゲリのダンスチームのみなさんを迎え、約500人の参加者で会場のコープこうべ生活文化センターはいっぱいになりました。

今回のイベントは、福島県にある「ＮＰＯルワンダの教育を考える会」がサンプツゥさんらを招聘したもので、20日間の滞在中に15回のコンサートが、主に東北を中心に開催されました。関西では神戸だけとあって、多くの参加者で大盛況でした。

この公演は、サンプツゥさんの「音楽を通じて、世界中に平和を広めたいという思い」と今回のコーディネーターでもあるマリールイズさんの「教育の大切さを思う」気持ちが一致し、実現したものです。

１部の講演、2部のコンサートを通じて、「ゆるすこと」でしか平和は生まれない、というサンプツゥさんの言葉に込められた幾重にもなっている思いを受け止め、自分なりの行動に結びつけることが、きっと私たちにできることなのではと感じています。

今回の公演は、たくさんの団体、企業、神戸学院大学や日本ルワンダ学生会議の学生さん、そして会場にお越しいただいたみなさまのおかげで成功することができました。心から感謝申し上げます。

（実行委員会）

まさしく「ルワンダフルコンサート」♪

ありがとうございました

NPOルワンダの教育を考える会　副理事長　本田啓之

今回ルワンダ内戦を体験した歌手と舞踊家を日本に招き、アフリカ民族音楽を楽しみながら、国際交流・国際協力に対する理解と平和と教育の大切さを学ぶ機会になると願い「ルワンダフルコンサート2010」を全国15会場で開催しました。

Jean-Paul Samputuは、1962年3月15日生まれ、ルワンダ出身のシンガーソングライターです。彼はルワンダ内戦で幼なじみに家族を殺されるという悲劇を「ゆるすこと」で乗り越え、その体験から学んだことを音楽活動を通して世界に発信しています。

2003年にコウラ賞（アフリカのグラミー賞と言われる）を受賞し、ルワンダのために文化大使として世界中で公演を行っています。伝統的なルワンダ音楽とダンスからゴスペル等幅広いスタイルで歌います。また、会場と一緒にアフリカのリズムをワークショップの形で楽しませてくれました。

通訳を、同じ想いを共有する本会理事長（マリールイズ）が行うことによって、アフリカ異文化にふれ、国際交流と国際協力に対する理解が深まったことと思います。

講演会「コーヒー危機とフェアトレード」
●6月１９日開催

６月19日（土）、県支部ではかねてから開催したいと思っていたフェアトレードについての学習会をコープこうべと共催で開催、中学生をはじめ様々な年代層の人たち６２人が参加しました。辻村先生からは、パワーポイントで図や写真をまじえてわかりやすくお話いただき、消費者としてできることを考えるよいきっかけとなりました。

最近国際協力を考える中でよく耳にするようになった「フェアトレード」。しかし、実際にはどんなものなのか、あまり知られていないのではないだろうか。まずは「知ることから始めよう」ということで、フェアトレードを実践されている辻村英之先生をお招きして開かれた学習会に参加した。

辻村先生は、毎年調査でタンザニアのルカニ村を訪ねていらっしゃる。ルカニ村は人口1400人の小さな村で、主要産業はキリマンジャロコーヒーの生産である。しかし、90年代初め頃からコーヒーの値段が下がり続け、村民の生活は苦しくなった。特に2001年には世界のコーヒー生産の半分をブラジルでコーヒーが豊作となり、コーヒー価格が史上最安値となる「コーヒー危機」が起こった。コーヒーから利益を得られなくなったことで村民は、教育・医療・社会開発への支出を大きく削らざるを得なくなり、トウモロコシなどの作物に切り替えたり、都市への出稼ぎに力を入れたりした。それは、最高品質・価格のコーヒー豆を多く輸入してきた日本人にとっても、おいしいコーヒーが飲めなくなる「危機」だった。

このような状況を何とかするために始められたのが、「ルカニ村・フェアトレード・プロジェクト」。

「フェアトレード学習会に参加して」

コーヒーの収穫から輸出までは水洗、発酵、乾燥など10工程ほどの手間がかかるが、それまでは喫茶店コーヒー価格の約227分の1（450円のうちの約２円）しか、生産者の手元には入っていなかった。しかし、１）国際価格が低迷している時でも最低輸出価格が保障される、２）利益の一部（フェアトレード・プレミアム）を生産地に還元し、社会開発プロジェクトの経費として利用する、というFLO国際認証制度の二つの基準を満たすことで、生産者にコーヒー豆の代価が正しく届くようになった。このおかげで村には既に図書館が完成し、今は中学校の建設も進められている。しかし、フェアトレードについての関心は高まってきたものの、売れ行きはまだ停滞気味なのだそうだ。

おいしいコーヒーが安く手に入る裏にある、生産者の苦い現実。しかし、フェアトレード商品を買う人が増えれば、その現実をいい方向に変えられるかもしれない。消費者としてできることがあることに気づかされた学習会だった。

（ユニーズ　成田千尋）

■辻村英之（つじむら ひでゆき）氏
プロフィール

1967年生まれ。1998年京都大学大学院農学研究科博士課程修了。 金沢大学経済学部助教授を経て、 現在、京都大学大学院農学研究科准教授。

『コーヒーと南北問題―「キリマンジャロ」のフードシステム―』（日本経済評論社、2004年）

『南部アフリカの農村協同組合―構造調整政策下における役割と育成―』（日本経済評論社、1999年）

『コーヒー学のすすめ』（ニーナ・ラティンジャー、グレゴリー・ディカム著／辻村英之監訳／世界思想社、2008年）

『おいしいコーヒーの経済論』（太田出版、2009年）などの訳・著書。

特別寄稿
AFRICA Report

アフリカ・フロントラインから見えてきた日本

大津司郎 ジャーナリスト

私は40年近く、日本とアフリカを行き来してきた。意外なことだが、そこからは紛争などアフリカが抱える問題以上に、今の日本が見えてきた。アフリカから日本を観る見方は多くはないと思うが、この場を借りて何が見えてきたのかを報告しようと思う。その前に簡単に、私のバックグラウンドについてお話したいと思う。

私の仕事はアフリカ紛争をカバーするジャーナリスト、アフリカ関係のテレビ番組のコーディネーター、そしてアフリカのサファリツアーのガイドだ（普通は日本社会では存在しない仕事だ）。とくにアフリカ紛争問題の取材とレポート、情報収集と分析は私の仕事の中心といっていい。ほとんどアフリカに関心のない日本でこうしたことを続けていくのは相当難しいが、とにかく40年近く続けてきた。フリーの立場として、周囲の人たちの理解と支援でどうにかサバイバルしている。

はじめて私がアフリカ大陸の土を踏んだのは、1970年のことだ。横浜から船で行った。途中、飛行機、汽車など乗り継ぎ、最後はボンベイ（現ムンバイ）から東アフリカに向けて航行する〈カンパラ丸〉という移民船のバンク（船底）クラスに乗り、セイシェルズ経由でケニヤのモンバサに到着した。全体では１カ月かかった。アフリカに夢を賭けるインド人移民に混じり、船底の蚕棚のような鉄板ベッドの上で毎日カレーを食い、約２週間を過ごした。アフリカについた後は、東アフリカと南部アフリカを中心にほとんどヒッチハイクとバスで貧乏な旅をした。

フロントライン

私事で恐縮だが、何故私は40年近くもアフリカと日本を往復するのか。それはそこが世界のフロント・ラインだからだ。先にも書いたように、「人間的危機」から「資源争奪」に至るまで、アフリカにはすべてがある、すべての問題が存在する。だから、すべての人間、すべての国々が集まってくる。PMC（民間軍事会社）を巻き込んだコンゴのレアメタル争奪、中国、ロシア、インド、さらにアジア諸国がしのぎを削るスーダンをはじめとした石油資源争奪、さらに本土のテロ活動とリンクしたソマリア沖での頻発する海賊行為。レアメタル、石油、そしてシーレーン、どれ一つとっても日本が無関係でいられるものはない。だが驚くべきことにそのフロントラインに日本の「プレゼンス（存在）」はない。今だに、「アフリカは遠くて危ない」などと言っているようでは、追い上げ急なアジアの新興国に破れ去るだろう。「カントリー・リスク」を管理、コントロールできてこそ、はじめて海外におけるビジネス展開といえるのではないか。

アフリカにおけるテロ活動防止を目的に、今年創設されたアメリカのアフリカ統一司令部（USA AFRICOM）もテロ活動への対応以上に、アフリカの資源確保、さらに暴走する中国の牽制の意味合いが強い。

資源だけではない。食料から環境、さらに貧困（格差）とエイズ、そして紛争と援助、人道支援の問題など、そこには学ぶべき多くの政治的、経済的、社会的、そして人間的アジェンダ（課題）、レッスン（教訓）がぎっしりと詰まっている。とくに私は紛争問題から物事を見がちであるが、紛争には必ず原因がある、当然、「原因の究明」に関しての知的、経験的作業が生まれる。国際社会と当事者たちによる膨大なエナジーを投入する「解決」に向けた作業と努力が要求される。これらすべては、問題に関しての情報収集とその分析という作業過程を伴う。多くの人間関係、ネットワークが構築され、そこに常にインテリジェンス（知的情報収集）の（拡大）再生産がなされる。何より地元、関係している世界の人間たちに多くの知恵（Wisdom）と教訓（Lesson）をもたらす。紛争の停戦会議一つを取ってみても、常にギリギリのやり取りが交わされる。ケンカの仕方の一つくらいは学べるはずだ。不幸にしてアフリカはそうした作業と努力を必要とする事例、現場があまりにも多い。逆に言えば、常に周囲の人間はそうした問題解決のための実践訓練にさらされていることになる。当然、そこに“世界の”スタンダードが生まれる。

だが、幸か不幸か、そうした場に日本のプレゼンスはない。
そうした場から学び、それを活用するという発想も、アプローチもない。もちろん専門のシンクタンクもない。

確かに、これまで紛争とは無縁な“平和国家”日本は、そうした部分を技術力、勤勉といった分野でカバーし、実現してきたかもしれない、しかし今、世界の現実はそうした技術、物づくり、勤勉といったレベルだけでは解決できない問題に溢れ、技術と勤勉一本で押し切れない場合も少なくない。技術と勤勉を真の利益に変える戦略的フォローがない。仮にトヨタもソニーも世界から退いた時、それに代わる「日本」はどうしたら生まれるのか。

そうした様々なことが、アフリカのフロントラインに立ったときハッキリと見えてくる。従来の日米、日中関係の中からだけでは見えてこない世界と戦いが、そこにある。しかも、アメリカも中国も、そこではメイン・プレイヤーの一人だ。

今のところ、快適なパラダイス日本、しかし、資源のない島国が内にこもって守りに入った時、その国は内部から腐っていくしかない。生卵を放置しておけば、中から腐っていくのと同じだ。殻は自分の手で破らなければ、新しい命は生まれない。それができないとき、外からの望まない力で破られる。

元気のない日本国内へも還元できるような形で世界へ出て行く国際化こそが、島国の生きる道だ。そこに日本〈国内の〉新たな活力が生まれ、可能性もまた開かれる。最後に、これらすべては私がアフリカのフロントラインに立った時に、個人的に見えてきた日本だということをお断りしておく。

※写真は大津さん撮影。

2006年１月のアフリカ学習会。ジャーナリスト・大津司郎さんとの出会いはそこからはじまりました。この間、兵庫県支部での主に紛争や資源に関する報告会や支部オリジナルのタンザニアスタディツアーなど、様々な場面でご協力いただいています。その中でいつも感じるのは厳しい現実を知っておられるからこその強さとやさしさ。

大津さんが2010年４月、『アフリカン　ブラッド　レアメタル』（無双舎）を発行されました。ぜひご拝読ください。

大津司郎さんプロフィール

1948年東京生まれ。フリー・ジャーナリスト。東京農大在学中からアフリカに行く（1970年）。サハラ旱魃救援委員会（チャド、ナイジェリア/1973年）、青年海外協力隊（タンザニア/1975年）を経て、70年代後半から現在に至るまでアフリカ関連テレビ番組のコーディネーターを務める。1992年から、ビデオカメラをもちアフリカ紛争取材をはじめる。ソマリア、スーダン、アンゴラ、ルワンダ、コンゴ、ブルンジ、イラク等々。主にニュースステーション（当時）、ニュースジャパン、ニュースゼロなど、ニュース番組の特集でアフリカをレポート。その他学生を中心にアフリカスタディツアー、講演等も行う。

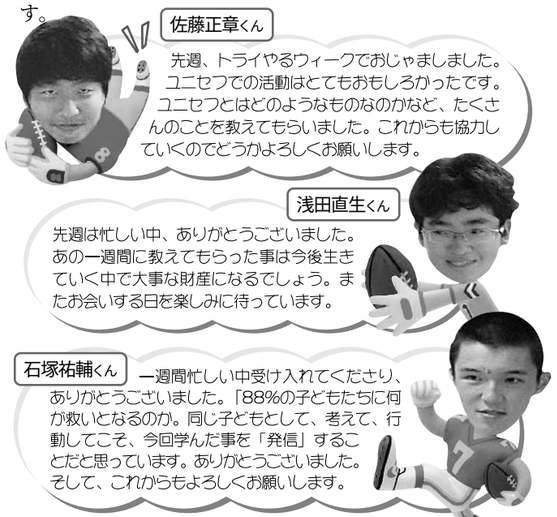
ユニセフ体験にトライ！ 啓明学院中学生

●トライやるウィーク　●6月14日（月）～18日（金）

ユニセフの事務所には、世界のグッズやたくさんの資料が所狭しと並んでいます。その中での事務のお手伝いやグッズ頒布体験活動からたくさんのことを学んだようです。

また、私たちも中学生のみなさんの元気パワーをもらうことができました。「まず、知ることからからはじめよう」

三人も、ボランティア活動の第一歩を踏み出せたようです。



ユニセフグッズの頒布に参加

学習や体験を生かしてアフリカ・ルワンダの資料を作成

「児童買春・児童ポルノ禁止法」の早期改正を求める要望書へのご協力をお願いいたします

（財）日本ユニセフ協会は5月27日、「児童ポルノがない世界を目指して」緊急アピール及び国民運動の発足を発表。現在、国民一人ひとりに対しての署名活動を行うと同時に政府、および国会に対して「総合対策案の具体的実施」と「現行法改正の早期実現」を求めるための活動をスタートしました。兵庫県支部としても、要望書をもって国会に対して、児童ポルノの単純所持の禁止を含む法改正を直接訴えます。児童ポルノを「見ない、買わない、持たない、作らせない」というメッセージを呼びかけていく活動として、ぜひご協力をお願いいたします。

来年1月の国会提出までに、50万筆の目標を目指しています。趣旨にご賛同いただける方、ご協力をお願いいたします。なお、署名は一旦、兵庫県支部で取りまとめます。お手数ですが兵庫県支部までお送りください。

「臨時理事会」「臨時評議員会」を開催しました

●9月13日（月）

現在、（財）日本ユニセフ協会は公益財団法人へ移行するための準備を進めています。公益財団法人として認可された後は、現在の兵庫県支部（全国に26ある地域組織）の位置づけは、「協力協定」によって結ばれたパートナーとして、ユニセフ活動を支援する任意の団体となります。ユニセフへの協力活動はほとんど変らない形で継続していきます。

先日開催された「臨時理事会」で、「（財）日本ユニセフ協会の公益法人化に伴う、兵庫県支部の組織変更について」ご承認いただきました。今後、協力協定を締結後は、「兵庫県ユニセフ協会」と名称を変更し、これまでの組織体制を継続し、ユニセフ協力活動をすすめていきます。これからも変らぬご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

今年も神戸まつりパレードに参加しました!!

何かに向かって、みんなで懸命になっていると、どんどんチャンスがやってくる……

「ルワンダフルコンサート」の企画委員会が立ち上がった頃、今年も神戸まつりパレードに参加できることが決定しました。

パレードでユニセフの活動を知っていただくにはどのようにばいいのか、毎回悩むところですが、今回のテーマは「ルワンダフルコンサート」を前面にPRすること。みんなのアイディアがどんどん出てきて準備もスムーズに流れていきました。

そして迎えた当日も素晴らしく晴れ上がり最高の日でした。カンガを身につけ、手作りの横断幕を持ち、大阪大学の西アフリカ太鼓サークル『タリベ』のみなさんにもご協力いただき、参加者120人が笑顔で行進。アフリカの雰囲気が印象深く届いたのではないでしょうか。これからもユニセフがどんな活動をしているのか、具体的にお伝えできるように広報活動ができるといいと思いました。

民間企業や団体によるユニセフ支援③

【コープこうべの取り組み】

ユニセフ活動を通して、人と人がつながる ユニセフ活動を通して、わたしたちのくらしを考える

コープこうべのユニセフ募金活動は、1982年にスタートしました。きっかけは、「世界の子どもたちにバケツ1杯のきれいな水」を贈るキャンペーンでした。その後、日本生協連の呼びかけにより、全国の生協が取り組み、今では、平和活動の大切な柱になっています。

このことから、コープこうべは、日本ユニセフ協会の委嘱をうけて、1982年から「ユニセフ募金兵庫事務局」を約20年間担いました。そして2002年の「日本ユニセフ協会兵庫県支部」の設立にも力をつくし、その後も組合員向け学習会などで連携しています。

主な取り組みは、毎年12月の集中募金やユニセフ学習会のほか、ユニセフスタディツアーへの参加と報告、広報協力やコープの行事でのユニセフグッズの頒布などがあります。例えば、夏休みの子ども向けの料理講習会や環境学習会など、幅広いテーマと関連づけてユニセフのミニ学習を行うこともあります。これらの企画を組合員が行っていることも、大きな特徴のひとつです。

2009年度「ユニセフ・ラオス・スタディツアー」に組合員公募により選ばれ参加した小川八重子さんは、現在、現地の支援活動の様子を、県下の地域コープ委員会、平和のつどい、行政の行事などで報告しながら、ユニセフ活動への理解と協力を広めています。一人ひとりが、ふだんのくらしの中で、ユニセフ活動の意味を考えたり、今のわたしたちのくらしを見直すこと、そして組合員が組合員に伝えていくことが大切だと考えています。

ユニセフ・ラオス　スタディツアー報告会

竹本会長の被爆体験を描いた「さいごのトマト」の紙芝居も、各地の行事で組合員の手で上演され続け、深い感動を呼んでいます。

募金や会員など、あなたができる方法でご協力ください

緊急募金のお願い

●ハイチ地震緊急・復興支援募金
郵便振替：00190－5－31000
※通信欄に「ハイチK1－280兵庫」と記入

●パキスタン緊急募金
郵便振替：00190－5－31000
※通信欄に「パキスタンK1－280兵庫」と記入

●アフガニスタン緊急・復興支援募金
郵便振替：00190－5－31000
※通信欄に「アフガニスタンK1－280兵庫」と記入

●アフリカ緊急募金
郵便振替：00190－5－31000
※通信欄に「アフリカK1－280兵庫」と記入

●自然災害緊急募金
郵便振替：00190－5－31000
※通信欄に「自然災害K1－280兵庫」と記入

●人道危機緊急募金
郵便振替：00190－5－31000
※通信欄に「人道危機K1－280兵庫」と記入

※送金手数料は免除されます。
※口座名義：財団法人日本ユニセフ協会
※募金はゆうちょ銀行指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
※ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

ユニセフ募金

～ご家庭で学校で職場で～

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

◆郵便振替でお願いします
◆口座番号：00190-5-31000
◆加入者名：（財）日本ユニセフ協会
◆通信欄に「K1－280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行う日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

◆一般会員…1口　5,000円（個人ならどなたでも）
◆学生会員…1口　2,000円（18歳以上の学生）
◆団体会員…1口　100,000円（団体、法人、企業）

※申込み方法については、お問い合わせください。

ボランティア募集

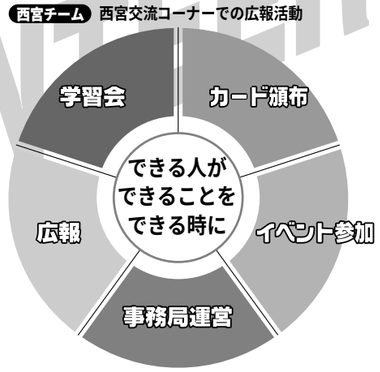
ユニセフってことばは知っているけれど、いったいどんな活動をしているんだろう。また、世界の子どもたちのために、私もボランティアできるかな。

そんなことを思ったら、まずはご連絡ください。

「知ることから」を大切に、活動に関わる中で、知ったことを伝える、行動につなげているのが、ボランティアさんの活動です。幅広い年代の方に参加いただき、いろいろな活動に取り組んでいます。あなたにできること、いっしょに見つけてみませんか。

「できる人が　できることを　できる時に」がモットーです。お気軽にお問い合わせください。

- **学習チーム** ユニセフについての出前学習会の講師活動
- **カードチーム** カードなどのユニセフ製品の頒布活動や管理
- **事務チーム** 支部事務局をサポートする事務所内での活動
- **広報チーム** 「Wish」の作成やその他広報ツールの作成
- **UNIES** 学生など若者が中心の活動
- **オリーブの会** 姫路・加古川でのカード頒布を中心とした活動
- **西宮チーム** 西宮交流コーナーでの広報活動



お・知・ら・せ

第32回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

Hand in Hand

テーマ

届けたい。すべての子どもたちに“いのちを守る方法”を

世界には、予防接種などの「いのちを守る方法」に出会うことなく一生を終える子どもたちが存在しています。予防接種が受けられたら、経口補水塩を摂ることができたら、もっと多くの子どもたちを助けることができます。ハンド・イン・ハンドでは、守られるべき尊い命のために、みんなの"手と手をつなぐ"募金活動を展開します。

とき

12月23日（木・祝） 11:00〜13:00（予定）

会場

あなたもボランティアとして参加しませんか

●当日は各会場とも現地集合、解散になります。会場や詳細については、事前にお問い合わせください。

姫路 — 加古川 — 垂水 — 名谷 — 元町 — 三宮 — 芦屋 — 住吉 — 西宮 — 宝塚 — 伊丹

竹本会長・平和講演会

「『さいごのトマト』被爆から65年〜いのち伝える〜」

- と　き：**11月27日（土）16:00〜17:30（予定）**
- ところ：**コープこうべ生活文化センター4階第2会議室**
- 講　師：**竹本成徳さん（日本ユニセフ協会兵庫県支部 会長）**

●**にしのみやふるさとウォーク2010　12月4日（土）西宮市内**

ユニセフ カードとギフト 秋・冬号2010

●**カード・グッズの購入をご希望の方は、お問い合わせください。**

ユニセフのカードとギフトは、定価の約50%がユニセフの活動資金として、世界の子どもたちの命と健康を守る活動に役立てられます。

ユニセフ支援ギフト カタログ

■**毎月7日は「ロビー喫茶・カード頒布」の日**／コープこうべ生活文化センター1階ロビー

unicef

ルワンダフルコンサート感想

片山夏紀（日本ルワンダ学生会議）

ボランティアは「自分で」どんどん仕事を見つけて率先して取り組まなければいけないと痛感しました。「次は何をすればよいですか？」「何かお手伝いすることはありますか？」と逐一尋ねるような指示待ち型人間では、何の役にも立ちません。それを実感できたことが今回の収穫の一つでした。

お申し込み・お問い合わせは兵庫県支部まで

☎078-435-1605

FAX 078-451-9830

※電話でのお問い合わせは平日の10時〜16時

世界の子どもたちのために

Wish Vol.31号（2010年11月号）

ユニセフ兵庫ニュース

2010年（平成22年）11月発行

発　行：日本ユニセフ協会兵庫県支部

住　所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F

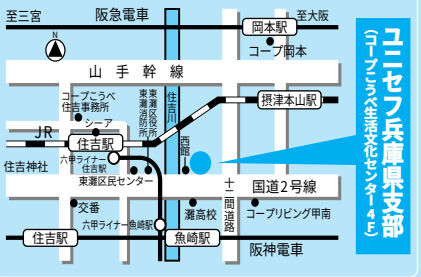
電　話：078-435-1605

ＦＡＸ：078-451-9830

（お問い合わせは平日の10時〜16時）

●最新の情報はホームページで
http://www.office-bit.com/unicef-hyogo

日本ユニセフ協会兵庫県支部　検索

●ユニセフ兵庫県支部への案内図

●JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分